



2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月10日

上場会社名 株式会社MTG 上場取引所 東
 コード番号 7806 URL <https://www.mtg.gr.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松下 剛
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 CFO (氏名) 吉高 信 TEL 052-307-7890
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第2四半期の連結業績（2022年10月1日～2023年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	27,823	22.3	2,416	4.8	2,290	△8.4	1,156	△40.2
2022年9月期第2四半期	22,748	12.7	2,304	△24.1	2,500	△25.9	1,932	△35.5

(注) 包括利益 2023年9月期第2四半期 1,010百万円 (△38.8%) 2022年9月期第2四半期 1,649百万円 (△41.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	29.35	29.23
2022年9月期第2四半期	49.48	49.12

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第2四半期	52,356	42,233	79.5
2022年9月期	49,942	41,285	81.8

(参考) 自己資本 2023年9月期第2四半期 41,627百万円 2022年9月期 40,845百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2023年9月期	—	0.00	—	—	—
2023年9月期（予想）	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年9月期の連結業績予想（2022年10月1日～2023年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	58,000	18.4	3,400	5.0	3,300	△11.4	1,600	△40.4	40.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 (社名) ー
除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期2Q	40,086,488株	2022年9月期	40,082,288株
② 期末自己株式数	2023年9月期2Q	678,553株	2022年9月期	690,261株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期2Q	39,398,605株	2022年9月期2Q	39,056,697株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(追加情報)	12
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による影響の緩和により、社会経済活動の正常化が進みつつある一方、金融政策等を背景とした世界的な資源価格の高騰、急速な為替相場の変動や物価の上昇、また地政学的にも不安定な状況が続き、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは、世界中の人々の人生をより美しく、より健康的に輝かせるためにHEALTH、BEAUTY、HYGIENE領域においてブランド及び商品の開発に取り組んでまいりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

①ダイレクトマーケティング事業

主な事業内容は、当社及び国内他社ECサイト、新聞を通じた一般消費者への直接販売及びインターネット通信販売・カタログ販売並びにテレビ通信販売事業者への卸売販売となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は11,723百万円（前年同期比22.7%増）、経常利益は3,512百万円（前年同期比30.4%増）となりました。

ReFaブランドでは引き続きReFa BEAUTECHシリーズのヘアケア商品や付随する消耗品の販売が好調に推移いたしました。新商品のReFa BEAUTECH DRYER SMARTは、プロフェッショナル事業での先行販売の宣伝効果もあり楽天市場のデイリー家電ランキングで第1位を獲得いたしました。また、ReFa HEART BRUSHは、楽天市場のブラシ・くしランキングで19週連続第1位を獲得する等大変ご好評を頂いております。2023年2月に新商品ReFa HEART BRUSH RAYも発売し、ReFa HEART BRUSH、ReFa HEART BRUSH for SCALPと、シリーズの充実とともに販売台数も大きく伸長しております。ReFa FINE BUBBLEシリーズも引き続き堅調に販売台数を伸ばしております。SIXPADブランドではSIXPAD Powersuit Core Beltはキャンペーンの効果もあり販売が好調に推移いたしました。NEWPEACEブランドでは新商品NEWPEACE Pillow Releaseの発売に先立ち楽天市場にて予約受付を行い、SNSでのキャンペーンとあわせ、多くの反響を頂きました。

MTG LIFEPLAN（月々定額・下取りサービス・きちんと保証）においても引き続き会員数が増加しております。

②プロフェッショナル事業

主な事業内容は、B happy サロン専用ECプラットフォームでの販売、美容室運営事業者、エステティックサロン運営事業者への卸売販売、宿泊施設への設備販売、ショッピングセンター等での一般消費者への直接販売となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は7,933百万円（前年同期比34.9%増）、経常利益は1,118百万円（前年同期比18.8%減）となりました。

O20サロンプラットフォームサービスB happy（プラットフォーム上に設けた自店舗専用のオンラインショップより、店舗顧客に当社商品をいつでもお買い求め頂けるサービス）は、ReFa BEAUTECH DRYER SMART、ReFa BEAUTECH HEAD SPA等の新商品が好調なため、加盟店数及び会員数は、当第2四半期連結累計期間で大幅に増加いたしました。

美容室市場ではサロン専用フィンバブルシャワーヘッド、ReFa FINE BUBBLE PRO FITの設備設置導入が好調で、シャンプー及びヘッドスパサービスの付加価値向上や他店との差別化及び節水効果が採用要因となっております。サービスでフィンバブルを体感する事により、家庭用のReFa FINE BUBBLE SやReFa FINE BUBBLE PUREの販売も大きく伸長しました。

また、SIXPAD Power Gunシリーズを活用したサービスを取り入れることで自然な販売に繋がり、売上が好調に推移しております。

宿泊施設においては、ReFa FINE BUBBLE SHOWERシリーズ、ReFa BEAUTECH DRYERシリーズ、ReFa BEAUTECH IRONシリーズのハイグレードホテルへの導入が引き続き好調に推移しており、ReFaルームの認知度や人気が高まってきております。ReFa HEART BRUSHを宿泊ギフトとして採用するホテルも増えており、顧客満足度の上昇や稼働率の向上に役立っているとお声を頂いております。

③リテールストア事業

主な事業内容は、量販店・専門店・百貨店・免税店・ショッピングセンターを中心とした運営事業者への卸売販売及び当社運営の小売店舗での対面販売を通じた一般消費者への直接販売となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は6,606百万円（前年同期比20.5%増）、経常利益は782百万円（前年同期比15.4%増）となりました。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策による行動制限の緩和、2023年3月13日からマスク着用も個人判断が基本となったことから、人々の行動が活発になり、店頭集客とそれに伴う売上も堅調に推移いたしました。

ReFaブランドでは、ReFa BEAUTECHシリーズのヘアケア商品や付随する消耗品、ReFa FINE BUBBLE S等を軸に引き続き売上が堅調に推移いたしました。また、ReFa HEART BRUSHの新商品として店頭導入されたReFa HEART BRUSH for SCALP及びReFa HEART BRUSH RAYの2シリーズは新たなお客様層の獲得に大きく寄与いたしました。ReFa HEART BRUSHは専門店のイベントで販売台数が大きく伸びたほか、家電量販店へ展示を含む什器展開も開始し販売台数の伸長とブランド価値向上に繋がりました。

SIXPADブランドでは、SIXPAD Foot Fit PlusやSIXPAD Powersuit Core Beltが好調に推移いたしました。

④グローバル事業

主な事業内容は、海外グループ会社ECサイト及び海外のインターネット通信販売事業者の運営するECサイトを通じた一般消費者への直接販売、並びに海外のインターネット通信販売事業者、海外の販売代理事業者、海外の美容専門店及び海外の百貨店運営事業者への卸売販売となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は744百万円（前年同期比32.0%減）、経常損失は398百万円（前年同期は30百万円の経常利益）となりました。

中国においては、会員制ホールセールクラブにてStyleブランドのポップアップストアの展開を開始いたしました。また、ライブ販売によるReFa MISTの販売が好調に推移いたしました。USAにおいては、第65回グラミー賞公式ギフトラウンジのメインスポンサーに採用されました。公式ギフトラウンジでは美容ブランドReFaが展開するブラシシリーズとReFa FINE BUBBLE Sを中心にご紹介をし、好評を博しました。

⑤スマートリング事業

主な事業内容は、ショッピングや飲食時の決済を可能とする、非接触式のスマートリング（近距離無線通信を搭載した指輪）の製造販売を行うIoT事業となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は82百万円（前年同期比33.3%減）、経常損失は628百万円（前年同期は533百万円の経常損失）となりました。

2023年1月4日付にて日本経済新聞社による「2022年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞」を受賞し、複数メディアで取り上げられるとともに当社グループとしてのPR強化も行い販売拡大に努めました。また、2023年3月より連携可能なスマートロックとのタイアップにて新生活応援キャンペーンを実施し、ECでの販売拡大に繋げることができました。

⑥その他事業

主な事業内容は、EV車両を中心とした自動車販売、SIXPAD STATION事業及びSIXPAD HOME GYM事業となります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は734百万円（前年同期比19.4%増）、経常損失は51百万円（前年同期は22百万円の経常利益）となりました。

これらのセグメントで取り扱っている主なブランド及び商品は、次のとおりであります。

(ReFaブランド)

<FINE BUBBLE SHOWER>

2023年2月1日よりサロン専用のファインバブルシャワーヘッドReFa FINE BUBBLE PRO FIT/ ReFa FINE BUBBLE PRO FIT plusを、ファインバブルシャワーシリーズのラインナップとして新たに発売いたしました。施術者の手にフィットするデザインを追求し、当社従来品より約22%の小型化を実現しております。このため操作性が高くなり施術者の負担を減らすだけでなく、頭皮や髪の汚れ、残留しやすいシャンプー剤等を洗い流して素髪へと導き、サロンでの仕上がりを高めるアイテムとなっております。大好評頂いているReFa FINE BUBBLE PUREにおいては、引き続き「浴びるだけで10秒エステ」TVCMを関東・関西・東海・福岡・広島エリアにて放映を強化いたしました。また、日本最大級の商品比較サイト「マイベスト」のシャワーヘッドランキングでは、ReFa FINE BUBBLE Sが総合1位、ReFa FINE BUBBLE PUREが8位とTOP10に2商品がランクインしております。とくに、ReFa FINE BUBBLE PUREは「洗浄力」「肌あたり」の2部門で1位に選ばれる等、商品特長がしっかりと浸透してきている証と捉えております。

<HAIR CARE>

2022年11月の全国の美容室サロンでの先行発売当初より取り扱いサロン様からご好評を頂いておりました、コンパクトなデザインと使いやすさを追求したドライヤーシリーズの新モデルReFa BEAUTECH DRYER SMARTを、お客様からのご要望にお応えして2023年1月25日から全国の百貨店カウンターや直営店、オンラインショップにまで販売を拡大いたしました。オンラインでの販売直後には、楽天市場のデイリー家電ランキングで1位を獲得する等注目の高さを証明する結果となりました。また、TVCMでは更なる認知拡大を目的に、仕上がりの良さを伝える「ベネフィット篇」を追加制作し、放映を開始いたしました。なお、2023年1月末時点でヘアドライヤーシリーズ累計出荷数が50万台を突破しております。同じく2023年1月に販売市場を拡大したReFa BEAUTECH HEAD SPAは、エステティシヤンの力強い手技を再現した独自テクノロジーで頭皮を深くつまみ上げ、従来品より一回り小さくなった仕様によって、ご自宅でも本格的なヘッドスパを楽しんで頂けると好評を得ております。また、2023年2月にはReFa HEART BRUSHシリーズから、揺らめく光線のようなデザインが美しいリッチなハートブラシReFa HEART BRUSH RAYを発売いたしました。上質な光線(レイ)のデザインと共に、ピンの折れや曲がりを守るカバーにはミラーを搭載する等、お出かけ先でも鏡を見ながら髪を梳かすことができる仕様となっております。オンラインショップで先行発売後に全国百貨店及び直営店にも販売を拡大しております。なお、2023年3月末時点でReFa HEART BRUSHシリーズ累計出荷数が早くも100万台を突破いたしました。

<BEAUTY TECH>

2023年2月1日に、独自のテクノロジー「ダーマヒート」で、高周波振動熱×冷却の同時アクションを可能にした美顔器ReFa DERMA HEATをオンラインショップ、通販市場、エステサロン及び美容室サロンにて発売いたしました。家庭用美顔器としては異例のハイパワーで高周波振動熱を送り続けながら肌表面はすばやく冷却するため、クールな肌が熱を包み込むような構造が生まれ、肌の内側がじんわりととろけるような体感を実現しており、ReFaの美顔器カテゴリに厚みを持たせる存在となっております。

<SHAMPOO/TREATMENT/その他消耗品>

アイロン前に髪になじませるだけで、狙いどおりのスタイリングを叶えてキレイにロックするReFa LOCK OIL& ReFa LOCK OIL LIGHTが、SNSを中心に引き続き話題を集めております。2023年2月に実施された雑貨専門小売店「LOFT」や美容特化型ロコミサイト「アットコスメ」が実施するランキング企画のヘアオイル部門でベストコスメを受賞する等、購入者のロコミをもとに販売店舗からの高い支持が続いております。また、2023年2月には、髪のうちねりや広がりアプローチする補正ヘアウォーターReFa HAIR WATER for HEARTを発売いたしました。各市場で大好評のReFa HEART BRUSHとの併用もおすすめしております。また、2023年2月21日から紫外線ダメージによる肌トラブルを内側からケアするサプリメントReFa UV TUNEを、オンラインショップや通販市場にて販売開始いたしました。これは機能性表示食品であるため飲むだけで内側から全身の肌に効き、日焼け止めに潜む落とし穴“UVリーク”によるダメージから肌を守る効果が期待されます。発売時のプロモーションではPEACH航空のCAとのコラボレーションにより、「紫外線を浴びやすい環境にいるCAも推奨する飲むUVケア」というコンセプトで様々な施策を行う等、ReFaの提案の幅をさらに広げております。

(SIXPADブランド)

<SPORTS>

2023年3月に発表された「日本スポーツ用品大賞2022」では、SIXPAD Powersuitが「最も革新的だった商品」部門 総合1位(大賞)、「最も売れた商品」部門の「トレーニンググッズ」部門第1位を受賞いたしました。「最も売れた商品」部門の「トレーニンググッズ」部門第1位を受賞は、SIXPADシリーズとして7年連続になります。また、10周年を記念した特別部門「10周年ベストアイテム」部門では、SIXPADシリーズが総合第3位を受賞いたしました。受賞号では、腹筋、脇腹、背筋にアプローチし体幹を鍛えるSIXPAD Powersuit Core Beltのタイアップを実施し、着用しながらランニングする「ハイブリッドトレーニング」を訴求いたしました。

2023年3月に実施された名古屋ウィメンズマラソンでは体験ブースを出展し、商品体験機会の創出と認知拡大を図りました。女性ランナーを中心にSIXPAD Powersuit Core Beltやトレーニング前後の身体をケアする「SIXPAD Power Gun」シリーズ等を実際にお試し頂き、大盛況を収めました。

<HEALTH CARE>

2023年2月10日「フットケアの日」に合わせ、足裏から足を鍛えるSIXPAD Foot Fitシリーズの販売促進キャンペーンを実施いたしました。今後も高齢者やご両親へのギフトを検討されているお客様に向けた施策を強化してまいります。

(Styleブランド)

2023年1月20日、プロサッカー選手である長友佑都氏と共同開発したStyle LumbarをベースとしたStyle Lumbar ActiveとStyle Lumbar Deluxeの2アイテムを発売いたしました。Style Lumbar Activeは、これまで以上に手軽に日常的にご使用頂ける商品として開発し、本体形状もスリムでコンパクトになったことからスカートやズボンの下にインナーとしても着用することが可能となりました。また、Style Lumbar Deluxeは、母指圧を再現した「こしあつパッド」によって指圧代用効果を得られることができ、腰回りのコリをほぐして血行を良くすることが期待されます。腰回りの不安を和らげるだけでなく、Lumbarシリーズの特長である姿勢サポートも可能ですので、姿勢でお悩みの方にも安心してご使用頂けます。このため、腰回りに不安を抱える産後の女性や業務上で腰に負担のかかるお仕事をしている方、ご自宅のお掃除等、腰に関する多くの悩みを持つ方々にご愛用頂ける商品となりました。

2023年2月20日より着用することで歩行時の姿勢をサポートするStyle Tapingwear Leggings、Tapingwear Socksを発売いたしました。森ノ宮医療大学 インクルーシブ医学研究所所長 工藤慎太郎氏と共同開発したStyle Tapingwearは、独自のテーピング理論により筋肉や関節の動きをサポートすることができ、負担の少ない「S字姿勢」へと導くことが可能となりました。独自のテーピング理論を編地で表現する事で、毎回運動のたびにテーピングテープを貼る事なく、手軽にテーピングに近い効果を得ることができます。約3,600万人と言われるウォーキングを楽しむ方の悩みとして「膝の負担」「筋肉の負担」等が挙げられております。膝・筋肉の負担の要因の一つとされる誤ったウォーキング時の姿勢（姿勢が歪むことで身体に負荷がかかり、膝や筋肉の負担を引き起こす）を正しくすることで負担の少ない歩行を可能にいたしました。

日本人の約3,000万人の方が腰痛をもっていると言われておりますが、着用するだけで正しい「S字姿勢」へと導くことができるStyle Lumbarシリーズ、Style Tapingwearシリーズを新たな強化アイテムと位置づけ今後も積極的にプロモーション活動を行ってまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は27,823百万円（前年同期比22.3%増）となりました。また、営業利益は2,416百万円（前年同期比4.8%増）、経常利益は2,290百万円（前年同期比8.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,156百万円（前年同期比40.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては52,356百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,413百万円増加しました。これは主に現金及び預金の増加1,035百万円、商品及び製品の増加825百万円及び投資有価証券の増加554百万円によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債につきましては10,123百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,466百万円増加しました。これは主に支払手形及び買掛金の増加1,047百万円並びに未払法人税等の増加168百万円によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産につきましては42,233百万円となり、前連結会計年度末に比べ947百万円増加しました。これは主に配当金の支払があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益1,156百万円による利益剰余金の増加及びその他有価証券評価差額金の減少68百万円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）につきましては、17,564百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,035百万円増加しました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は、2,388百万円（前年同期比50.0%増）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益2,192百万円、仕入債務の増加額753百万円及び法人税等の支払額988百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は、1,284百万円（前年同期比44.8%増）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出427百万円、無形固定資産の取得による支出132百万円及び投資有価証券の取得による支出714百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は、88百万円（前年同期は111百万円の資金の獲得）となりました。これは主に非支配株主からの払込みによる収入315百万円及び配当金の支払額392百万円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、本日（2023年5月10日）公表の「通期業績予想修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,529	17,564
受取手形及び売掛金	4,838	4,612
商品及び製品	9,654	10,480
原材料及び貯蔵品	1,414	944
前払費用	436	479
その他	1,727	2,053
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	34,600	36,133
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	289	330
土地	8,883	8,883
その他(純額)	615	849
有形固定資産合計	9,788	10,063
無形固定資産		
	476	543
投資その他の資産		
投資有価証券	2,673	3,227
繰延税金資産	1,923	1,912
その他	592	592
貸倒引当金	△113	△116
投資その他の資産合計	5,076	5,615
固定資産合計	15,341	16,223
資産合計	49,942	52,356

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,644	2,691
未払金	1,739	1,739
未払法人税等	964	1,132
賞与引当金	512	540
その他の引当金	609	593
その他	2,808	3,028
流動負債合計	8,279	9,726
固定負債		
その他	377	396
固定負債合計	377	396
負債合計	8,656	10,123
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,772	16,773
資本剰余金	16,153	16,155
利益剰余金	9,116	9,878
自己株式	△904	△889
株主資本合計	41,137	41,919
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	54	△14
為替換算調整勘定	△346	△277
その他の包括利益累計額合計	△292	△291
新株予約権	3	0
非支配株主持分	436	605
純資産合計	41,285	42,233
負債純資産合計	49,942	52,356

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
売上高	22,748	27,823
売上原価	7,960	10,961
売上総利益	14,788	16,862
販売費及び一般管理費	12,483	14,445
営業利益	2,304	2,416
営業外収益		
受取利息及び配当金	7	7
為替差益	208	—
貸倒引当金戻入額	—	17
その他	29	13
営業外収益合計	246	38
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	—	141
コミットメントフィー	5	—
賃貸借契約解約損	21	—
固定資産除却損	2	1
株式交付費	10	—
その他	10	20
営業外費用合計	50	164
経常利益	2,500	2,290
特別利益		
固定資産売却益	—	7
投資有価証券売却益	4	—
新株予約権戻入益	—	3
受取保険金	263	—
受取損害賠償金	142	—
債務消滅益	326	—
特別利益合計	737	11
特別損失		
投資有価証券評価損	0	87
和解金	275	—
リコール関連費用	—	2
貸倒引当金繰入額	80	20
特別損失合計	356	109
税金等調整前四半期純利益	2,880	2,192
法人税等	1,012	1,182
四半期純利益	1,868	1,009
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△64	△146
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,932	1,156

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	1,868	1,009
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△130	△68
為替換算調整勘定	△88	69
その他の包括利益合計	△218	0
四半期包括利益	1,649	1,010
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,713	1,156
非支配株主に係る四半期包括利益	△64	△146

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,880	2,192
減価償却費	231	322
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△65	28
為替差損益 (△は益)	△8	6
受取保険金	△263	—
和解金	275	—
売上債権の増減額 (△は増加)	647	171
棚卸資産の増減額 (△は増加)	28	△361
仕入債務の増減額 (△は減少)	△227	753
前払費用の増減額 (△は増加)	△49	△49
未払金の増減額 (△は減少)	△1,036	7
その他	△273	302
小計	2,139	3,373
利息及び配当金の受取額	7	4
利息の支払額	△0	△0
保険金の受取額	263	—
和解金の支払額	△275	—
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△542	△988
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,592	2,388
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△272	△427
無形固定資産の取得による支出	△193	△132
投資有価証券の取得による支出	△406	△714
子会社株式の取得による支出	△110	—
その他	96	△9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△886	△1,284
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△7	△9
株式の発行による収入	6	3
非支配株主からの払込みによる収入	517	315
配当金の支払額	△389	△392
その他	△15	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	111	△88
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	19
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	812	1,035
現金及び現金同等物の期首残高	15,651	16,529
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,463	17,564

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて)

当第2四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて、前事業年度の有価証券報告書に記載した内容から重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結結果計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 2	四半期連結損益計算書計上額 (注) 3
	ダイレクトマーケティング事業	プロフェッショナル事業	リテールストア事業	グローバル事業	スマートリング事業	その他事業 (注) 1	計		
売上高									
外部顧客への売上高	9,550	5,881	5,482	1,095	123	614	22,748	—	22,748
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	9,550	5,881	5,482	1,095	123	614	22,748	—	22,748
セグメント利益又は損失(△)	2,693	1,378	678	30	△533	22	4,269	△1,769	2,500

(注) 1. 「その他事業」は、EV車両を中心とした自動車販売、SIXPAD STATION事業及びSIXPAD HOME GYM事業となります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,769百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,769百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2022年10月1日至2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	ダイレク トマーケ ティング 事業	プロフ ェッシ ョナル 事業	リテー ルスト ア事業	グローバ ル事業	スマー ト リング事 業	その他事 業 (注) 1	計		
売上高									
外部顧客への売上高	11,723	7,933	6,606	744	82	734	27,823	—	27,823
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	11,723	7,933	6,606	744	82	734	27,823	—	27,823
セグメント利益 又は損失(△)	3,512	1,118	782	△398	△628	△51	4,334	△2,043	2,290

(注) 1. 「その他事業」は、EV車両を中心とした自動車販売、SIXPAD STATION事業及びSIXPAD HOME GYM事業となります。

- セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,043百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,043百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
- セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

経営上の意思決定を行う区分を基礎とするマネジメント・アプローチをさらに徹底するため、第1四半期連結会計期間より、従来「スポーツジム事業」に含まれていたHOME GYM事業の売上高を販売チャネル別のセグメント分類に変更し、「プロフェッショナル事業」及び「リテールストア事業」の区分に変更しております。

当該変更に伴い、「スポーツジム事業」の量的な重要性が低下したことから、「その他事業」の区分に変更しております。

なお、このセグメント変更に伴い、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分により組替えて表示しております。